

挑む!

難病患者で弁護士で市役所課長

青木 志帆さん(34)

ポジティブに幸せへのお手伝い



明石市（兵庫県）の障害者・高齢者支援担当課長に昨年就いた。山のよう
な事案と向き合い、法律面から助言す
る。窓口で市民の相談にも耳を傾け
る。と書くところ、バリキャリっぽい
が、「周りと壁をつくらないよう、努
めてへらへらしてます」。

脳下垂体の機能が低下する難病を抱
える。疲れやすく、ホルモン注射と点
鼻薬が毎日欠かせない。20代のころ、
医療費助成が一時受けられず、注射代
で一度に18万円も請求された。「これ
じゃ、生きてかれへん」。国民は平等
なはず。訴えてやると発起し、200

堺市出身。大阪市立大学法学部からロ
ースクールを経て、2009年から兵庫
県尼崎市の法律事務所で働く。15年1月
に明石市に入庁。講演活動も多い。

8年に司法試験に合格した。

弁護士として離婚調停などに携わり
つつ、重度障害者が自治体に介護の充
実を求める訴訟を支えた。やりがいは
あったが体がもたない。そんなとき、
明石市が弁護士資格を持ち障害者福祉
に詳しい職員を募っていると知った。
社会を変えたいと気負った時期もあ
ったが、弁護士1人では難しい。行政
に飛び込むことで、障害者への配慮を
促す条例づくりにかかわれた。市独自
の助成制度をいかにして、点字のメニ
ューを置く飲食店もでてきた。

障害者がつらさや苦勞を理解してほ
しいと思うのは当然。ただ自身は、こ
んな支援があればもっと幸せになれる
と、ポジティブに発信していきたい。
「その方がきくと伝わる」

（文・十河朋子 写真・堀内義晃）

◇ 「挑む！」では、関西を元気にして
くれる人たちを紹介します。

記者から

熱さと、当事者に寄り添いすぎない冷静さ。そ
の考えは障害者福祉のあり方の最先端との評も。